vol.258

市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井博文

病院ボランティアからの手紙

合併翌年の平成 18 年 6 月（財政破綻を回避するため，市役所全職員に対する給与カットを開始した時期です），山陽小野田市民病院（当時の「小野田市民病院」）で，「病院ボランティア」が誕生しました。公募に応募してくれたのは 5 人。

「経験のない素人ばかり，不安を抱えながら，玄関に立ち受付案内，車椅子介助などなど，病院を訪れる方のお役に立てればという意気込みで，赤いエプロンをし，「おはようございます」，「お大事に」と声をかけていきます。」（広報「さんようおのだ」平成 18 年 10 月 1 日号 19 ページで紹介）

以来 10 年が経ち，病院ボランティアの一人から，手紙が届きました。

「病院ボランティアになって 10 年になります。その間，事務長 6 人，看護部長 3 人の方々に仕えました。どなたも私たちボランティアを気付かってくださり，感謝しています。この春，着任された事務部長（もと事務長）と総務課長は，病院の玄関口に立ち，私たちと同様，患者さんを笑顔で迎えています。これまでになかったことで, とても新鮮な印象を受け, 好感を覚えます。また暑いある日のこと，事務部長が自ら花壇の草取りをされており，そういえば総務課の雰囲気も活気に溢れているように思います。他の職員のみなさんもときどき私たちのところにきて，「何かありますか」と問いかけてくれます。嬉しいですね。職員のみなさんが，自ら考え自ら汗を流す姿を見て，私たちも，なお一層頑張らなくてはと，心を新たにしています。」

今では多くの市民の方が，いろんな分野で，公共の仕事を手伝ってくれています。ボランティアのみなさん，本当にありがとうございます。

公立大学の運営も順調です

4 月 1 日にスタートした公立大学は，学長を中心に，順調に推移しています。既に初回の経営審議会と教育研究審議会が開かれました。その席で，市長が評価委員会（市の附属機関）の意見を聴き，議会の議決を経て大学側に投げかけていた 6 年間の中期目標に対し，対応する中期計画や年度計画が学長から詳細に示され，委員から強い期待の声が上がりました。特に私には，定員不足が慢性化して廃校に追い込まれた大学を，公立化してでも存続させた，その原点である「地方創生」の趣旨を，学長が十分に理解されていることに感銘を受けました。

平成 30 年 4 月に設置予定の薬学部についても，報告によると教員のリクルートは順調だとか。校舎の建設も，年内には業者が決まり，いよいよ着工の予定です。動物棟，薬草園なども必要とあって，工学部のみの単科大学として長年地域に馴染んできた大学のイメージが少し変わりそうです。